



## ふかしんメッセージ ④ — 校長から香住のみなさんへ —

令和6年3月18日（月）

### 「革新する伝統」 — 希望の令和6年度・創立40周年に向かって —

先週末3月15日（金）は、「令和6年度入学者選抜学力検査」の合格発表の日でした。月日の経つのは早いもので、1、2年生は、それぞれ1年前、2年前の感激を思い出したことだと思います。午後からは2回に分けて合格者説明会を開催し、本校にとって区切りとなる40期生としての入学予定者が確定しました。

午後の合格者説明会があっている教室を覗いて校長室に戻る途中、県外から本校を受検して合格した生徒さんと偶然出会いました。その生徒さんは、私の顔を見ると即座に満面の笑顔で「校長先生ですよ！私、いつも『ふかしんメッセージ』を読んで、勇気もらってました。」と話してくれました。まさか、県外の中学生が「ふかしんメッセージ」を読んでいるとは想像もしませんでしたから、その言葉に驚くと同時に、香住丘を志望している受検生のためにほんの少しでも力になれたかと思うと、何とも言えない心から嬉しい気持ちになりました。

今年度のはじめ、「校長室のドアが開いている時は、生徒のみなさんも先生方も話に来てもらってOKです！」と伝えてから今日まで、97名の生徒さんが校長室に話しに来てくれました。（自分たちから申し出て校長室掃除をしてくれて、毎日色々な話をした卒業した3年生7名を入れると104名の生徒さんたちになります。）「校長室にいつでもどうぞ。」と言ったら、校長への要望等ばかりがよせられるんじゃないか？と思ったりもしましたが、その予想は良い方に見事に裏切られました。この約100名のみなさんは、ひとりの例外もなく、「〇〇してください。」とか「〇〇してくれませんか。」といった要望だけをぶつけてきた人はいませんでした。このみなさんの話は、相談、提案、自分はこう考えるが校長がどう思われるか訊きたい、自分が経験した良いことの紹介、一つのテーマについての意見交換、といった前向きで建設的なものばかりでした。そんなみなさんとの話から、私は知らなかったことを教えてもらったり、刺激を受けたり、考えさせられたり、新しい気づきがあったりと、

それはもう私にとって、ワクワクするような実に楽しい時間でありました。また、自分たちから「面接練習をお願いできますか？」と言って校長室を訪ねて来てくれた卒業した3年生が9人いたのですが、彼（女）らは、実によく準備をし、考えをよく深めていたので、形だけの面接練習ではなく、話す内容について私とディスカッションしながら、それを深めていくというものになりました。これには面接練習を指導しているはずの私の方が、彼（女）たちの考えや話から大いに刺激を受け、知的に実に楽しい時間となり、彼（女）たちの話す内容や話し方が、打てば響くように、見る見るうちに素晴らしいものになっていく様子を目の当たりにできたことは、私にとってこんなに幸せな瞬間はありませんでした。「教師冥利に尽きる」とは、まさにこんなことなんだなあと心から思いました。

県外からの本校の受検生、校長室に話に来てくれた約100人のみなさん、そして面接練習を一緒にやった卒業した3年生。こうしたみなさんをはじめとして、私に喜びや幸せをもたらしてくれたのは、いつも香住のみなさんたちでした。仕事の面で辛いことや精神的にきついことも決して少なくはなかった私のこの1年ですが、そんなみなさんから元気と勇気ももらい、がんばることができたような気がしています。こうして、この1年で改めて私が確信したことは・・・香住のみなさんは、みなさんたち自身が思っている以上に遥かに素晴らしい力を持っているということでした。

みなさんとの直接的な交流は必ずしも十分ではなかったかもしれません。限られたものであったかもしれませんが、それだけに儀式や行事等で、みなさんにお話しする機会には、私の思っていることや考えていることを率直な言葉で心を込めて語ってきたつもりです。それが少しでも、香住のみなさんに届いていたならこんなに嬉しいことはありません！

香住丘は、今年創立40周年を迎えます。この創立40周年が、本校の在校生、教職員の一人ひとりがいつまでも心に残るものになるように、今、色々な計画をしています。そしてまた、この創立40周年という年を、押しも押されもせぬ「伝統校」となる創立50周年に向けて、本校の教育活動や教育内容をゼロベースで見直し、さらに良いものに充実させていくための絶好の「チャンス」の年であると捉えています。これまでも度々述べてきたように、「チェンジ」の時は「チャンス」であり、その「チャンス」は「チャレンジ」することによってモノにすることができます。そういう意味では、創立40周年という本校のアニバーサリーはまた、重要な「チャレンジ」の時であるのです。「チャレ

ンジ」とは「変わること」と言い換えることができると思います。以前紹介した、吉野家ホールディングスの安部 修仁元会長が、「その組織の精神（スピリッツ）さえ変わることがなければ、それ以外の形あるものは、（時代や社会の変化に応じて）どれだけ変わっても構わない。」と語っているように、私たちも前例や惰性的にやってきたことに捉われることなく、生徒のみなさんはもとより、先生方も、そして学校としても、よりよいものを求めて様々なことを「変える」こと、「変わる」ことに躊躇うことなく、アグレッシブに取り組んでいきましょう。「伝統」とは、これまでやってきたことや前例をそのまま踏襲し続けることではありません。香住丘の開校以来の「精神（スピリッツ）」をしっかりと堅持しながら、前向きかつ柔軟に「変化」していくこと、それこそが香住丘の「伝統」であり、創立40周年を機に私たちが目指すのは「革新する伝統」なのです。

さあ、間もなく香住丘の更なる飛躍の年、令和6年度がスタートします。新しいクラスで、新しいクラスメイトや担任の先生、学年団の先生との「新たな出会い」が待っています。「出会い」は、私たちの世界を広げます。そのことを楽しみに、明日からの春休みを活用して、この1年の自分のあり方を落ち着いて振り返り、学習・生活両面の自分自身の課題を明確にしてほしいと思います。その課題を焦らず一つひとつ解決していくことが、みなさんが「変わること」ことであり、それがまさに「チャレンジ」の第一歩です。

校長 深瀬 信也